

【平成22年12月】

情報連絡員 調査結果概況報告

静岡県中小企業団体中央会 情報企画課

本調査は、静岡県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合（協同組合、商工組合等）の役職員87名に委嘱〕による調査結果です。調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の前年同月の状態と比較し、全体的な景況をDI値として規定したものです。

※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 調査対象組合数] × 100

12月の調査結果の概況

- 売上高 -36.8(11月 -27.6)、収益状況 -46.0(同 -44.9)、業界の景況 -46.0(同 -42.5) となった。前月に反し、主要三指標とも低下した。特に、政策効果の息切れ等により、製造業における売上高の減少が顕著となっている。また、資金需要の高い時期にも関わらず、資金繰りの悪化報告もあり、今後の影響に不安が広がる。非製造においては、在庫数量を除く全ての項目でプラス回答の構成比が10を割っている状況となっており、非常に厳しい状況が依然として続いている。非製造業における取引条件が12.5ポイント上昇しているが、好転回答はなく低位横ばいであり安心はできない。また、製造業における雇用人員の増加、業界の景況における好転回答も0件であった。
- 主要3指標を含む6項目で全国値を下回っており、格差が拡大する傾向にある。

※DI値の推移 ～「在庫数量」のみプラス値が高いほどマイナス要因と定義

	H21.12	H22.11	製造業	非製造業	H22.12	H22.12	対前年同月		対同年前月	
	(B)	(C)			(A)	全国	H22.12-H21.12	H22.12-H22.11	(A)-(B)	(A)-(C)
売上高	-55.2	-27.6	-23.1	-47.9	-36.8	-21.7	18.4	↑	-9.2	↓
在庫数量	-19.7	-13.1	-17.9	-18.2	-18.1	-14.7	1.6	↑	-5.0	↓
販売価格	-46.0	-27.6	-25.6	-20.9	-23.0	-22.9	23.0	↑	4.6	↑
取引条件	-40.2	-23.0	-15.3	-16.7	-16.1	-20.8	24.1	↑	6.9	↑
収益状況	-64.4	-44.9	-41.0	-50.0	-46.0	-36.7	18.4	↑	-1.1	↓
資金繰り	-50.6	-27.6	-35.9	-29.2	-32.2	-25.8	18.4	↑	-4.6	↓
設備操業度	-48.7	-2.6	-5.1		-5.1	-9.1	43.6	↑	-2.5	↓
雇用人員	-32.2	-15.0	-23.1	-12.5	-17.3	-15.9	14.9	↑	-2.3	↓
業界の景況	-62.1	-42.5	-38.5	-52.1	-46.0	-37.8	16.1	↑	-3.5	↓

情報連絡一覧票（静岡県中央会 平成22年12月分）

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	食料品製造業	業界全体に、沈静ムードが蔓延しだしているように感じる。政治主導の起爆剤が欲しい。
		食料品製造業	年末は個人送り中心となる。
		食料品製造業 (パン製造)	12月は学期末のため、学校給食日が減った。
		食料品製造業	先月に続き売上は横ばい。現状維持ができたのがなにより。ただし、仕入原価は不安材料があり、収益面で足を引っ張っている。仕入原価を抑えるのが当面の課題。
	繊維・同製品	衣服・その他繊維製品製造業	好転しかかっている。中国問題等もからみ、生地不足になっている。中国の急成長により、中国国内の需要も急拡大しているのも影響があるのではないかと。また、円高等により今後の予想も不安定である。未だ、設備の増設や従業員を増やす状況にならない。
	木材・木製品	木材・木製品製造業	毎年11～12月は年末、正月用食材と連動して木材需要の増加が顕著となる。今年度も変化はなく、売上は順調のようだ。今後も寒さが続くと、前年度より売上増が見込まれる。
		木材・木製品製造業	国産材（杉檜）産地の出材減による製品不足が見られる。価格も上昇気味。特に杉構造材（K〇材、柱、間柱）に不足感が強い。
		宗教用具製造業	年末の月にしては荷動きが鈍く、売上そのものが減少しており予想以上に悪いようだ。
	紙・紙加工品	パルプ・紙・紙加工品製造業	再生紙の原料になる古紙が値上がりしているが、再生トイレ紙は値上がりしないので、採算が合っていないようだ。
		パルプ・紙・紙加工品製造業	スーパーマーケット等で排出される段ボール古紙は平年並みであるが、製造業、その他販売店からの段ボール古紙は減少。家庭古紙も、大幅に減少している。
	印刷	印刷・同関連業	東京地区のクライアントの引き合いで、当社見積90千円を大手業者が75千円。大企業のなりふり構わない価格競争が中小企業にも影響。
	窯業・土石製品	窯業土石製品製造業	過去10年で12月の出荷が最低を記録する。本年3月をもって、1工場閉鎖する。
	鉄鋼・金属	金属製品製造業	駆け込み注文が多く発生した。
	一般機器	一般機械器具製造業	中国等海外企業が日本の最新鋭機械を積極的に導入しているほか、国内企業を退職した技術者を中国、韓国企業が好待遇（3年契約で報酬30～50百万円）で勧誘していること等、技術の流出が野放し状態にあることから、国内製造業の先行きが不安視される。
		一般機械器具製造業	心配していた円高による大幅な売上の減少は、12月まではそれほど落ち込んでいない。しかし、原材料の値上げを価格に転嫁できない状態となっている。新年の見通しが不透明で、仕事はあっても採算にあわない企業がでてくるだろう。
	電気機器	電気機械器具製造業	11月のエコポイント駆け込み需要の反動で、12月の販売は減少した。
	輸送用機器	輸送用機械器具製造業	今後も補助金終了の反動減と需要の先食いによる中期的な販売減が続くと見られる。
		輸送用機械器具製造業	売上高は6月期から7か月間ほぼ横ばいの状態が続いている。（2009年12月期と比較して140%UP）。ただし、機械設備業においては最悪の状態が未だ続いている。また、急激な円高により今後、コストダウン並びに海外シフトによる仕事量の減少が懸念される。
	その他	漆器製造業	厳しい状況が相変わらず続いている。
	非製造業	卸売業	各種商品卸売業
建築材料卸売業			例年見られる年末に向けた公共工事等への出荷も少なく、12月としては低調な出荷数量となった
小売業		家具・じゅう器・機械器具小売業	エコポイントの減少等でやや低調気味。1月には統一省エネラベル☆5の製品を購入し、買い替えをしてリサイクルを行った場合に限ることから、従来通りになるかと思う。今後は、平成23年7月24日のアナログ停波で、好調を維持するのではと推測する。
商店街		各種商品小売業（静岡市）	2/11, 12, 13 静岡おでんフェスタが開催される。

別紙 3

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非製造業	商店街	各種商品小売業（静岡市）	静岡最大級のおでんの祭典を2/11（祝）～13（日）の3日間、「しぞ～かおでんフェア」として開催。また、2/23（水）～27（日）「シズオカシネマパークフェスティバル」を開催する。期間中、大勢のお客様に来街していただき、商店街の活性化に役立てたい。
		各種商品小売業（三島市）	昨年度もそうであったが、全体的に客足は減少、収入も落ち込んでいる。商店街が飲食店街化しつつあり、なおかつ、その飲食店も外部資本のチェーンストアが多い。
		各種商品小売業（伊東市）	1/10「伊東の日」のイベントが、年々認知されてきている。当施設も1,100名に110円分のお買い物券を配布する。
		各種商品小売業（袋井市）	年末に行った「第6回100円商店街」ではウォークラリー（3店舗でのお買い物で抽選会に参加）の形式をとったが、それなりの効果が見られて良かった。
	サービス業	不動産取引業	全体的に多少動きがあった。年末の販売促進の成果か？
		廃棄物処理業	年末には多少の動きがあったが、以前に比べればまだまだの状況。
		宿泊業	年末年始の予約は、12/28～1/2までが90%以上の予約率となっている。
		宿泊業	大手旅館が伊東園ホテルに売却されたため、売上高が減少。1月の伊東園ホテルの売上は順調なため、1月の売上高は増加が見込める。
		情報サービス業	いわゆるF A系の自動車関連における「組込みソフト」需要の減少により、倒産や廃業するIT企業が増えているとの情報があった。特に東部地域で顕著のようであるが、当組合の組合員には、幸いにもそこまで最悪の状況という話は今のところない。
		その他のサービス業（警備業）	12月の売上高は、前年に比べやや増加したものの収益は前年並みであった。全体的に景況については、底を打ったような感がある。年度末に向けて、交通警備等の受注を期待している。
	建設業	総合工事業	公共事業の削減続きで厳しい状況に変わらないが、組合員が1社も倒産、廃業もなく新年を迎えることができた。今後も、智恵を出し合いこの状況を乗り切っていく覚悟である。
	運輸業	道路貨物運送業	年末に日用品を中心に出荷量が増えたため、車両が一時不足する事態となった。しかし、全体的な荷動きは良くなく、以前のような年末に残荷で大変な思いをする状況ではない。軽油価格が引き続き上昇しており、収益状況は悪化している。
		道路貨物運送業	年末にしては荷動きが悪かった。燃料の高騰で、さらに経費がかさむ状況である。
		道路貨物運送業	低迷のままの現状変わらず。
		道路貨物運送業	年末は需要増大で運送量の増加となったものの、燃料が値上がりし収益を圧迫した。運賃価格破壊が起きている。適正運賃への規制をかけることが望ましいのでは。

行政庁・中央会に対する要望事項等

	集計上の分類業種	具体的な業種	

D I 値（前年同月比）情報連絡員報告 平成12年12月～平成22年12月

このD I 値は県内の地域、業種を代表する組合役職員87名の情報連絡員から寄せられた景況等に関する情報の一部を表したものです。

